

よそものは 地域に何をもたらすのか？

刊行1周年 記念対談

『関係人口の社会学』から考える

ローカルジャーナリスト
島根県立大学地域政策学部准教授

田中 輝美



関西学院大学
人間福祉学部教授

白波瀬 達也

人口減少時代に、地域で起きる様々な課題に
私たちはどのように立ち向かっていけばよいのか。

「関係人口」とは、「定住人口」（移住）でもなく、「交流人口」（観光）でもない特定の地域に様々なかたちで関わる人々を指す語で、深刻な人口減少が進む地域社会の課題を解決するための新たな地域外の主体として、近年脚光を浴びています。

地域にとって関係人口はどのような価値があるのかを、はじめて学術的に論じた書『関係人口の社会学』（大阪大学出版会、2021年）をこのたび上梓した田中輝美氏、社会学及び社会福祉学の立場から主に生活困窮者支援、地域再生、まちづくりなどの研究を進める白波瀬達也氏が「人口減少時代の地域再生」を読み解きます。

関係人口の社会学

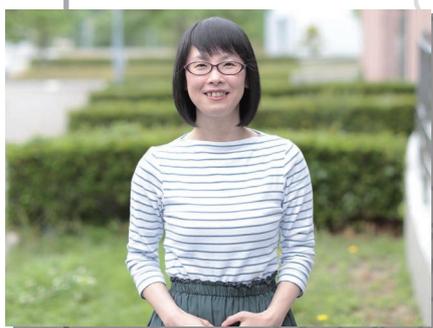
人口減少時代の地域再生

田中輝美

住む人が減ったら、
地域は再生できないのか？

『関係人口をつくる』の著者が、関係人口を社会学の見地から定義し、その役割を論じた本邦初の「関係人口の研究書」！
事例と新たな理論の枠組みによって関係人口を位置づけ直し、
人口減少時代の地域再生の方向性を示す

大阪大学出版会



田中 輝美 (たなか てるみ)

島根県出身。大阪大学大学院人間科学研究科後期課程修了。博士(人間科学)。ローカルジャーナリストとして、変わらず島根に暮らしながら、地域のニュースを記録している。2021年4月、島根県立大学地域政策学部准教授に着任。主著に『関係人口をつくる一定住でも交流でもないローカルイノベーション』(2017年、木楽舎)、『未来を変えた島の学校—隠岐島前発ふるさと再興への挑戦』(共著、2015年、岩波書店)など。2021年4月、島根県立大学地域政策学部准教授に着任。



白波瀬 達也 (しらはせ たつや)

奈良県出身。関西学院大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(社会学)。社会福祉士。釜ヶ崎にある地域福祉施設の相談員の仕事をを経て大学教員に。社会学と社会福祉学を横断する研究をしている。現在、関西学院大学人間福祉学部教授。主著に『宗教の社会貢献を問直す』(2015年、ナカニシヤ出版)、『貧困と地域』(2017年、中公新書)がある。

■日時

2022. 8.13 (土)
15:00 ~ 16:30

■場所

MARUZEN &
ジュンク堂書店梅田店
7F salon de 7

■定員

25名 (入場無料)

■お申し込み方法

MARUZEN & ジュンク堂書店梅田店
店頭または電話にて受付

TEL: 06-6292-7383

(営業時間 10:00 ~ 22:00)